

「競技かるたが多くのおみなさんに
愛されることを願っています。」



日本の伝統文化であるとともに、お正月などに家族や親戚みんなで楽しめる遊びとして古くから愛されてきたかるた。だれもが一度は体験したことのあるかるたの中でも、小倉百人一首を使って1対1で勝負する「競技かるた」については、おとし開催された国民文化祭で本市が競技会場となったこともあり、ご存知の方も多いのではないのでしょうか。

この競技かるたの世界で4年連続クイーン位を手にした本市出身の今村美智子さんは、現在も選手として活躍する傍ら、市内や宇部で開かれるかるた教室の講師を務めるなど、その普及活動にも力を入れています。畳の上に並べられた50枚の札を前に、それぞれの札が置いてある位置を暗記することはもちろん、読み手の声に瞬時に反応し、正しい札に触れるという反射神経やスピードも必要とされる真剣勝負。「札をとったときの感触は、野球で例えるとヒットやホームランを打ったときのような感じでしょうか。そんな瞬間を一試合で何度も味わえることがこの競技の大きな魅力ですね。」今もなお自身をひきつける競技かるたの醍醐味を、今村さんはそう表現します。

毎年1月の名人位・クイーン位決定戦をはじめ、各地でさまざまな大会が行われているものの、そのルールや歴史などまだまだ知られていないことも多いかるた競技。「地元でのかるた教室や講演を通して、まずは競技かるたを多くのおみなさんに知ってもらいたいですね。そうして生まれた輪がどんどん広がり、県内各地の仲間同士で対戦を重ねていくなかで、ふるさと山陽小野田からたくさんのかるた選手が誕生することを願っています。」今村さんの大きな夢は、故郷のこの地で着実に動き出しているようです。



今村 美智子さん
本市出身の元かるたクイーン

中学2年の時に競技かるたに出会う。その1年半後には「準クイーン」に輝くと、高校3年の時には「クイーン」の座をつかみ、4年間その地位を堅持。現在はかるた教室の講師を務めるなど、競技かるたを楽しくわかりやすく伝える活動に力を入れている。

かるたの風を吹かせたい～競技かるたに込める夢～

▶特訓を受ける今村さん（右）と指導する小林廣通氏。（左）小林氏は、競技かるたの指導に力を注ぎ、多くの選手を育てました。（写真は1975年撮影）



◀国民文化祭「かるた競技全国大会」の一コマ（おとし1月）。今村さん、久保さん（左）も山口県選抜チームの一員として活躍しました。

かるたのまち “小野田”

旧小野田市は、今村さんのほかに、昭和59年から連続して8年クイーンの座を手にした実績を持ち、全国初の「永世クイーン」の栄冠にも輝いた久保久美子さんを輩出するなど、「かるたのまち」として広く知られるようになりました。

かるた教室 参加者募集中！

- とき 1月19日(土)、2月16日(土)
3月15日(土) (時間は9:30～11:30)
- 場所 須恵福祉会館
- 費用 1回300円
- 問い合わせ・申込先
小田 (fax84-4917)・今村 (☎/fax67-3418)

